

公益社団法人松山市シルバー人材センター会員安全就業基準

(目的)

第1条 この安全就業基準は、公益社団法人松山市シルバー人材センター（以下「センター」という。）会員の就業に伴う事故を未然に防止し、安全に就業ができる事項を定めることを目的とする。

(会員の遵守義務)

第2条 会員は、就業しようとするときは、この基準を遵守し、あらゆる事故の発生防止に努めなければならない。

(安全心得)

第3条 会員は、就業にあたっては、次の安全心得を守り、作業に従事しなければならない。

- (1) 作業は安全第一を心がけ、急いだり、慌てたりしないこと。
- (2) 器具類は、使用する前に必ず点検すること。
- (3) 服装・履物は作業にあった動きやすいものにする。
- (4) 作業前には軽い柔軟体操をして体をほぐすこと。
- (5) 加齢による諸機能の低下を十分に認識し、無理をしないこと。
- (6) 作業現場では常に整理整頓に心がけること。
- (7) 共同作業では、合図・連絡を正確に行うこと。
- (8) 帰宅するまでは仕事のうち、交通安全に気を付けること。
- (9) 酒気を帯びての就業は、絶対に慎むこと。
- (10) 健康には常に注意し健康な状態で就業すること。
- (11) 仕事の前日には、十分睡眠をとるよう心がけること。

(作業別安全就業基準)

第4条 会員は、職種毎で定める安全就業のルールを守り、安全就業に努めなければならない。

(安全保護具)

第5条 会員は、高所作業（剪定作業等作業）に従事する場合は、必ず安全帽（ヘルメット）を着用するとともに必要に応じて安全帯、又は命綱を使用すること。

2 会員は、前項のほか安全面で保護する必要が有る作業に従事する際には、第4条に掲げる作業別安全就業基準に定める安全保護具を着用し、当該作業に従事しなければならない。

(交通災害の防止)

第6条 会員は、仕事場との往復時は、交通ルールを守るとともに交通事故に注意しなければならない。特に、自動車やバイク、自転車にあつては、次号に定めるところにより、十分注意し運転しなければならない。

- (1) 自動車・バイクを使用する会員は、道路交通法の定めに基づく機能検査（視力・認知機能）を満たさなければならない。
 - (2) 自転車を使用して就業又は自転車で仕事場との往復をする際には、自転車用ヘルメットの着用を努めることとする。
- 2 会員は、路上での作業に際しては、交通ルールを守るとともに安全ベストを着用する

など、交通事故に注意し、作業に従事しなければならない。

(作業環境の確認)

第7条 会員は、就業現場の環境が安全衛生面において、安全であるかどうかを確認してから、作業に着手しなければならない。

(標識の設置)

第8条 会員は、通行人等に対し危険と思われる作業を行うときは、作業中であることがわかる標識を設置し、事故の防止に努めなければならない。

(器具類の使用)

第9条 会員は、器具類を使用する場合は、正しい取扱方法により作業すること。

2 会員は、就業に使用する器具類については、必ず作業前に点検し安全を確認するとともに定期的に点検を実施しなければならない。

3 会員は、点検において、不良箇所を発見したときは、その器具は使用しないこと。またその器具がセンターよりの貸し出し備品の場合は、直ちにセンターに報告しなければならない。

(健康管理)

第10条 会員は、常に健康の維持管理に努め、健康診断は進んで受けなければならない。

2 会員は、常に疲労が蓄積しないように、休養を十分とるように心がけなければならない。

(報告義務)

第11条 会員は、仕事場との往復時や就業中にけがをしたとき、又は体に異常を感じたときは、直ちに共同作業中の者又は本人がセンターに連絡し応急の措置をとるようにしなければならない。

2 会員は、仕事場との往復時や就業中に発生した事故について、速やかにセンターに報告し、必要に応じて安全・適正就業委員会が実施する事故当事者の状況ヒアリングに応じなければならない。

(その他)

第12条 会員は、この基準に定める以外に、センター等より指示があった場合には、それに従い作業に従事しなければならない。

(委任)

第13条 この基準の施行に関して必要な事項は、安全・適正就業委員会規程第3条第3項の委員長が別に定める。

附 則

この基準は、平成2年1月25日から施行する。

この基準は、平成29年7月1日から施行する。